

# 中村かずひこ通信

【発行元】中村かずひこ未来をつくる会 〒321-4362 真岡市熊倉町3423-4 Tel. 0285-82-6285 vol.9  
ホームページ <http://www.i-berry.ne.jp/~tonpei> e-mail [tonpei@i-berry.ne.jp](mailto:tonpei@i-berry.ne.jp)



☆お気軽に声をかけてください。  
お友達との井戸端会議、勉強会等、2〜3人でも結構です。どこへでもお伺いいたします。  
☆あなたのアイデアを市政にいかしたい！  
お気づきの点がございましたら、どんな小さなことでも結構です。ぜひご意見を！

市民と市政のかけ橋になりたい!



## 6月定例議会・一般質問

6月定例議会の質疑、一般質問が9日(木)、10日(金)の2日間にわたって行われました。

中村は10日のトップバッターとして登壇し、

1. 芳賀赤十字病院の医師不足と今後の救急医療体制について
2. NPO・ボランティア団体に対する活動支援について
3. 『つくばエクスプレス』開業に合わせた真岡鐵道と関東鉄道の連携強化について

の計3件について一般質問を行いました。

(中面に関連記事)

真岡市でも定数削減に向けて

## 『議員定数問題等研究会』が発足

市町合併協議の破たんや、国の三位一体改革などの影響で、市の財政運営がますます厳しくなり、市議会としても定数削減の議論が避けられない状況となっています。

そうした中、市議会ではこの度『議員定数等問題研究会』が発足。中村もメンバーに加わることになりました。

6月16日に初会合が開かれ、正副委員長の選出などを行いました。研究会では議員定数のほか、今後の議会運営について、来年3月までに答申をまとめる予定となっております。

研究会のメンバー

◎浅山俊夫議員 ○大滝盛議員 仙波恒雄議員 豊田守議員 田上稔議員 蕎麦田公一議員  
稲見幸一郎議員 白滝裕議員 大田和正一議長 染谷功副議長 中村かずひこ(◎、○はそれぞれ正副委員長)

## 建設常任委員会 副委員長に選出されました

5月17日(火)に開催された臨時議会で、議会の新しい役職が決定。中村は建設常任委員会の副委員長に選出されました。

建設常任委員会のメンバー

◎佐藤和夫議員 ○中村かずひこ  
大根田悦夫議員 白滝裕議員 大根田幹夫議員 上野仁治議員  
(◎、○はそれぞれ正副委員長)

## ご存知ですか? 真岡市議会は常任 委員会も傍聴できます

より開かれた議会を目指して、ぜひ皆様のお越しをお待ちしております。

※なお、使用部屋の関係上、傍聴できるのは2〜3名程度です。

※傍聴する場合は、当該委員会の委員長の許可が必要となります。

お申し込み・お問い合わせは  
議会事務局 TEL. 83-8176 まで

みんなの夢をカタチに

## 第2回 市政報告会を開催!!

5月18日(水)午後7時から、大谷公民館にて『第2回中村かずひこ市政報告会』を開催しました。当日は市内から約40名の方々に参加し、2時間に及ぶ活発な意見交換が行われました。

皆様にはご参加いただきまして本当にありがとうございました。当日出されたご意見は、可能な限り実現できるよう、今後の議会活動の中で訴えていきたいと考えております。(中村)



「見逃した!」という方に  
バックナンバーをお送りします

これまで「未来を作る会」では、毎回定例議会終了時に、「中村かずひこ通信」を発行して来ましたが、1〜8号までを見逃された方は、お気軽にご連絡下さい。  
こちらからお送りさせていただきます。

次回発行予定日

10月16日(日)

発行予定です  
新聞の折り込みチラシをご覧下さい。

今回の「中村かずひこ通信」は





質問:中村かずひこ

# 中村かずひこ議会レポート

## 6月定例議会



答弁:福田武隼市長

### 芳賀赤十字病院の医師不足と今後の救急医療体制 について



**質問** 芳賀赤十字病院の内科医が大幅に減少し、夜間の2次救急が困難な状況におちいつている。これは『臨床研修医制度』の実施により、大学病院が派遣していた医師を引き上げたことなどによるものである。しかし近年、総合病院に患者が集中する傾向が強まっていることを考えると、**住民と医療機関の関係を根本から見直す絶好の機会を迎えたとも言える。**市や医師会が広報紙などを通じて、開業医の情報を市民に提供するなどして、欧米では常識化している『**ホームドクター制度**』を推進し、**予防医療の分野を強化してはどうか。**

**答弁** 病状を訴えられない子ども、持病や複数の疾患を抱えている人、また、勤務先での定期健診が受けられない専業主婦などは、**ホームドクターを持った方がよい。**総合病院への集中を減らす意味もあるので、今後は広報紙などにより、診療所の紹介を含めて『**ホームドクター**』を**推奨していく。**

**質問** 乳幼児の医療費助成を申請する手続きが、大変複雑であるということは、これまで各方面から指摘されてきた。だが、総合病院の小児科の場合、『**保険診療点数付き領収書**』が発行されるため、個人経営の小児科医院より手間が省ける。こうしたことも、総合病院に患者が集中する要因であるように思われる。**個人経営の小児科医院などに対して『保険診療点数付き領収書』を発行するための機材購入について補助することはできないのか。**

**答弁** 『**保険診療点数付き領収書**』は発行が義務付けされており、**小児科医院では全部機材が入っている**と思われる。小児科医院などに限定して補助することは、公平性に問題があることから、現在の段階では難しい。

**質問** 芳賀赤十字病院は、2次救急の拠点施設である。つまり、真岡市民をはじめ芳賀郡市に住む人々は、**心筋梗塞や脳出血などでより高度な治療が必要な場合、3次救急の施設**(自治医大、獨協医大、済生会宇都宮病院)まで搬送されなければならなかった。今後、芳賀赤十字病院における医師の招へいが一定の目標に達した段階で、可能な限り**救急医療に特化し、3次救急を可能にする医療施設に変えていくことはできないのか。**

**答弁** **3次救急**としての救命救急センターの整備については、**人口50万人に1ヶ所整備することが目安**となっている。栃木県では、人口200万人に対して、**3次救急の拠点施設が5ヶ所あり、40万人に1ヶ所の割合**である。現状では、**新たな拠点は整備しない方針**とのことである。

**質問** 県内の中核病院を見ると、**芳賀赤十字病院のような医師不足が見られない。**特に、今市、小山市、足利赤十字の3病院では、昨年より今年の方が医師は増えている。こうして考えると、**芳賀赤十字病院における医師の人材確保体制そのものに、何か大きな問題があった**と思えない。行政サイドからも病院の体質改善を強く求める必要があるのではないか。

**答弁** 今回、芳賀赤十字病院が内科医不足におちいった原因は、『**臨床研修医制度**』のほか、交通の便や労働条件の面によるものと思われる。いずれにしても、**病院側にはもう少し早い時期から医師確保のために対応してほしかった。**今後は県内の医科大学とも連携をよくしてもらいたい。

### NPO・ボランティア団体に対する活動支援 について



**質問** 平成18年度からの『**指定管理者制度**』導入や、『**2007年問題**』などを控えて、NPOやボランティア団体に対する期待が大きくなっている。しかし、真岡市では乗り越えなければならない課題がある。その1つが**NPOやボランティア団体に対して、助言やコーディネートをする『中間支援団体』が真岡市にはない**ということだ。県内他市ではすでに設立している所も多い。真岡市も**関係各機関に『中間支援団体』の設立を働きかけていくべきではないか。**

**答弁** 真岡市においても、**NPOやボランティア団体の中から、中間支援団体設立への要請が高まれば、関係各機関への働きかけを行いたい。**

**質問** NPOやボランティア団体に対する市の窓口は、総務課、生涯学習課、社会福祉協議会などに分かれており、市民にとっては大変に分かりづらい。**全国各地の自治体では『市民活動推進課』を設置し、窓口を1本化している所が増えてきた。**真岡市も同様の取り組みをしてみてもどうか。

**答弁** 現在、さまざまな分野でNPOやボランティア団体が活動しており、市の担当窓口も分野ごとに分かれているため、**団体同士の連携が図りづらく、十分に能力を発揮できない場合がある。**協働のまちづくりを進めるためにも、**将来は総合案内所的な窓口を設置していきたい。**

**質問** **NPOやボランティア団体の活動場所が少ない**ということも問題の1つとして挙げられる。そうした中、県内他市では『**総合ボランティアセンター**』などの名称で、活動場所を新設するケースも多くなった。しかし、そうした所は年間の維持費が数千万円もかかっている。そこで、前回の定例議会で提案した『**ベンチャー企業の支援施設**』と、『**NPO・ボランティア団体の活動拠点**』を併設し、**市の中心部の空き店舗を活用して整備してはどうか。**これならば、運営費の大半をベンチャー企業からの家賃収入でまかなうことができ、さらに**周辺の商店街への経済効果も大きい**と考えるが。

**答弁** 市としては、当面、**現有施設を有効活用してほしい**と考えている。しかし、県内では6市でボランティアを支援する施設が設置されており、今後、**拠点施設については関係各機関の意見を聞きながら、設置形態や運営の問題について検討したい。**また、**ベンチャー企業の支援施設については、県の補助事業が完了しているため、設置は困難なもの**と考えている。



# 『つくばエクスプレス』開業に合わせた 真岡鐵道と関東鐵道の連携強化 について



**質問** 8月24日の『つくばエクスプレス』開業に伴い、関東鐵道常総線では下館～守谷(つくばエクスプレスの停車駅)間に快速列車を走らせることが決まった。真岡鐵道でも、関東鐵道のダイヤに合わせて、快速列車を走らせることはできないものか。もし可能なら、真岡～秋葉原(つくばエクスプレスの終着駅)間が1時間40分程度で結ばれることになるが。また、関東鐵道の下館駅発車・停車時刻に合わせて、真岡鐵道のダイヤ改正は行えないものか。

**答弁** 真岡鐵道は単線であることに加え、交換駅である市埴、七井、西田井、真岡、久下田、折本の6駅には停車しなければならないため、快速列車を走らせることは不可能である。また、真岡鐵道のダイヤについては、利用者の76%が定期通勤・通学であることから、JR下館駅の列車運転時刻に合わせ、接続時間の調整を行っているのが現状である。利用者の利便性を考えたとき、ダイヤの改正は難しいと考える。

**質問** 真岡鐵道、関東鐵道、つくばエクスプレスが共同して、割引キップを販売することはできないものか。

仮に、真岡～秋葉原間を3500円程度で乗り降り自由に、さらに東京メトロや都営地下鉄とも連携しあうようになれば、現在JRが販売している『東京自由キップ』に対抗できる商品になると思うが。

**答弁** 『つくばエクスプレス』が8月24日から営業開始されることなので、運行状況などを見ながら、3社が連携しての割引キップ販売については、今後の課題として検討したい。

## 再質問



小児科医院が発行する領収書について

**質問** 小児科医院の『保険診療点数付き領収書』については、すでに全ての小児科医院で発行しているとの答弁であった。つまり現在は、『保険診療点数を記入してもらうために、小児科医院の受付に行く手間を強いられている親は完全にいなくなった』と考えてよいのか。

**答弁** 保険診療点数付きの領収書を発行していないところがあれば、今後発行するように要望をしていきたい。

3次救急の問題について

**質問** 3次救急の環境については、十分に整っているとのことであった。しかし、現状では真岡市内の中心部から自治医大まで20分、獨協医大まで30分、済生会宇都宮病院まで40分も救急車でかかる。命の瀬戸際ということを考えると心許ないと思うが。

**答弁** 宇都宮市内でも、20分で3次救急の拠点まで到達できない地域も多い。これに対して、真岡市は自治医大、獨協医大がほぼ同じ距離にあり、他の自治体と比べても、3次救急の環境は恵まれていると認識している。

中間支援団体について

**質問** 全国の中間支援団体を見ると、自治体によって設置されたものが大半を占めているようだ。真岡市でも、中間支援団体の立ち上げについては、市民の自発性に期待するだけでなく、市当局も何らかのアクションを起こすべきではないのか。

**答弁** 福祉や環境関係のNPO・ボランティア団体については、県に上部団体があるので、情報提供やアドバイスはそちらに期待した方がよいと思う。

NPO・ボランティア団体及び

ベンチャー企業の複合拠点施設について

**質問** 今後検討するということがあったが、中心市街地の再生、ベンチャー企業の支援、2007年問題など、早急に対応が求められている課題が絡んでおり、それほど悠長に構えてはならないと考える。検討するにしても期限を設けるべきではないか。

**答弁** NPO・ボランティア団体の活動場所については、現状でも十分確保しているものと認識している。『MOP21』に入居しているベンチャー企業については、3年で自立することが前提であるため、その後も支援することは、公平性の面から疑問が残る。

真岡鐵道の運営方針について

**質問** 少子化による高校通学者の減少、さらには現在の原油価格高騰といったことを考えると、真岡鐵道の運営については、何らかの新しい基軸を打ち出す必要があるのではないのか。では、これまで最重要課題として取り組んできたJR水戸線への乗り入れは、どこまで交渉が進んでいるのか。

**答弁** 東北新幹線の乗り換えに適した時間となると、JR側と『商売敵』の関係になるため実現は難しい。それ以外の時間帯は、水戸線の利用者が大幅に減少しているため、有効性に乏しい。そのため、慎重に検討している。

## 要望

『運命はなかなかのいたずらものだ。時代に乗り遅れたことで、かえって町に風情のある歴史的景観が残った。半周遅れは、視点を変えれば先頭だ』これは、滋賀県長浜市・黒壁の商店街について、日本経済新聞の論説委員が書いた一文である。

今回、私が質問した3つの課題は、真岡市が他の自治体と比べて“半周遅れ”の感があるものだと考える。しかし、半周遅れたからこそ、他よりもっといいものができるとも言えるのではないだろうか。

真岡市は単に半周遅れなのか、本当は半周先を走っているのか、厳しく評価される今後の4年間だと思う。2期目の福田市政においては、諸処の政策実現に向けて尽力されるよう強く要望する。





# どうなる？真岡市の地域医療

昨年度から実施されている「臨床研修医制度」によって、全国の大学病院で医師不足が発生。さらに、それを補うため、大学側が各地域の医療機関に派遣していた医師を引き上げさせたことで、わが国の地域医療は存亡の危機に瀕しています。

芳賀赤十字病院でも、特に内科や産婦人科で医師不足となり、救急医療の体制を維持することが難しくなっています。

市民の関心度が高い分、情報が錯綜している感もあるこの問題。そこで今回は、主だった診療科目について、真岡市の現状をまとめてみました。

ご存知でしたか？ **主要診療科目は、今このようになっています（7月以降）**

<b>内科</b> <1次救急> 芳賀都市医師会加盟の医療機関が輪番制で対応 <2次救急> 日・月…獨協医大 / 火・木・土…自治医大 水…芳賀日赤（午後9時以降は獨協） 金…済生会宇都宮	<b>小児科</b> <1次救急> 芳賀都市医師会加盟の医療機関が輪番制で対応 <2次救急> 芳賀日赤で24時間対応  <b>産婦人科</b> （芳賀日赤の状況） 今年5月、非常勤医師を1名招へいしたが出産予定者を募るまでには至っていない。（医師の安定確保に向けて交渉中）
<b>外科</b> 芳賀日赤で24時間対応	

1次救急…入院治療までは必要がない患者に対応  
 2次救急…入院治療や手術などが必要な患者に対応  
 3次救急…心筋梗塞や脳出血など重篤な患者に高度特殊な医療を提供

芳賀赤十字病院では、現在も医師の人材確保に努めており、今後、救急医療体制については変更される可能性があります。



## 私の政治活動費

「議員さんの活動って、どの位お金が必要なの？」これまで有権者の方々からそのような質問を大変多く受けてきました。そこで、この1年間（平成16年5月1日～平成17年4月30日）にかかった私の活動費を報告いたします。

項目	金額	備考
「中村かずひこ通信」発行費	969,946円	4回発行（新聞折り込み代含）
ホームページ更新料	140,000円	
書籍・資料購入費	99,922円	D-fileなど
研修参加費	83,500円	行政視察個人負担金など
交通費	12,990円	個人視察時の交通費
食糧費	3,712円	月例会の茶代
コピー代	1,340円	
通信費	15,080円	郵送料
文具費	8,032円	封筒、ファイルなど
その他	0円	

総額 **1,334,522円**



皆様からご意見、ご感想をお寄せいただければ幸いです。

※今回はより詳細に知っていただくため、個人視察時の交通費なども掲載いたしました。

※なお、それ以前にかかった費用については、中村かずひこ通信「第1号」「第5号」をご参照下さい。

### コラム

## ずーむあつぷ

日本の医療はこれまで、「2時間待ちの3分診療」と揶揄（やゆ）されてきた。患者の大病院指向が強いことを表した言葉である。

これは私たちの地域も例外ではない。平成13年度の1年間で、芳賀赤十字病院に救急外来で訪れた患者は2万2,350名。だが、入院が必要であったのは内科で約12%、小児科では3%にすぎなかったのだという。つまり大半は小規模の医療機関でも処置が可能な症状だったということになる。

東京都飯田橋にある寺下医学事務所を訪ねたのは、6月8日のことだった。代表の寺下謙三氏は、東大病院を辞めた後20年間にわたり、ホームドクターをさらに1歩進めた「プライベートドクター」を提唱し、実践を続けている。

16年前に父をガンで亡くしている私にとって、「健康な時から相談できる医師が身近にいれば…」という寺下氏の訴えには、強烈なインパクトがあった。

芳賀赤十字病院の医師不足は、確かに「ピンチ」以外の何物でもない。だが、視点を変えれば、医師と患者の関係を根本から見直す絶好の「チャンス」とも言えないだろうか。「大病院神話」が崩れた今の真岡市だからこそ、より理想的な医療環境を整えられるのだと思うのである。



## 中村かずひこ活動目録

- 4/1 行屋川桜まつり点灯式に出席
- 2 システムサイエンスフォーラムに出席（講師：高橋克法高根沢町長）
- 6 交通安全指導（高間木の交差点）  
湯澤英之鹿沼市議、中島宏宇都宮市議と面会
- 7 明治大学大学院ガバナンス研究科入学式
- 8 真岡西中学校入学式に出席
- 9 「熊倉福寿会」4月定例会に出席  
大谷地区総会に出席
- 11 真岡西小学校入学式に出席  
「MOP 21」にてヒアリング
- 12 「フェスタ・ジュニア」の打ち合わせ
- 13 市役所各課へ陳情
- 14 ホンダ女子ソフトボール部応援団定例総会に出席
- 15 真岡地区戦没者慰霊祭に出席  
「フェスタ・ジュニア」の打ち合わせ
- 16 西小学区「あいさつボランティア」打ち合わせ  
大谷地区「婦人防犯防火クラブ」総会に出席
- 17 市長選告示/大谷地区「わかば会」総会に出席
- 18 あいさつボランティア
- 19 朗読ボランティア「ひばりの会」総会に出席
- 21 大学院授業開始
- 24 市長選投・開票/大谷地区「子どもお囃子会」総会に出席
- 25 あいさつボランティア
- 29 ホンダ女子ソフトボール部の応援（於：足利市）
- 5/2 あいさつボランティア
- 8 「悠々の会」総会に出席
- 9 あいさつボランティア
- 10 福田市長と面会※芳賀赤十字病院の医師不足などについて意見交換  
湯澤英之鹿沼市議と面会
- 11 ITUDO BEN 新聞より取材※日本在住のブラジル人向け新聞  
真岡鐵道にてヒアリング
- 12 東京都千代田区を個人視察※2年分一括予算編成について調査
- 13 本多陸人芳賀都市医師会長と面会※小規模医療機関の1次救急体制についてヒアリング
- 5/16 あいさつボランティア/会派間協議
- 17 議員協議会/臨時議会/真岡西小学校健全育成連絡会総会に出席
- 18 芳賀赤十字病院にてヒアリング/市政報告会（於：大谷公民館）
- 19 真岡コンピュータ・カレッジにてヒアリング
- 22 明大校友会栃木支部総会に出席（於：宇都宮市）  
ローカル・マニフェスト推進地方議員連盟結成大会に出席（於：東京ビックサイト）  
「清溪セミナー」実行委員会（於：東京都日本青年館）
- 23 あいさつボランティア
- 30 あいさつボランティア
- 6/1 議員協議会/6月議会開会  
一般質問の通告書を提出※その後、市の担当部署と内容のすり合わせ
- 2 叙勲祝賀会に出席
- 6 あいさつボランティア
- 7 「ひばりの会」定例会に出席
- 8 寺下医学事務所を個人視察（於：東京都飯田橋）  
まちかど交流サロン準備会に出席
- 9 質疑・一般質問 1日目
- 10 質疑・一般質問 2日目※この日、トップバッターとして登壇
- 11 栃木市「つむぎの会」、いまいすみ児童館を個人視察
- 12 視覚障害者・ひばりの会・点訳サークル合同バスツアーに参加
- 13 あいさつボランティア
- 14 建設常任委員会
- 15 「フェスタ・ジュニア」の打ち合わせ/石坂真一県議「栃木県議会副議長就任を祝う会」に出席
- 16 議員協議会/6月議会閉会  
議員定数問題等研究会/国民健康保険運営協議会
- 18 真岡西中学校「スポーツフェスティバル」に出席
- 19 大谷地区「わかば会」奉仕作業
- 21 「ひばりの会」定例会に出席
- 25 「コミュニティビジネス起業ワークショップ」に参加（主催：真岡青年会議所）
- 27 東京都議選の応援
- 28 「ひばりの会」小学校読み聞かせに参加（於：真岡東小学校）